

## 調査結果の概要

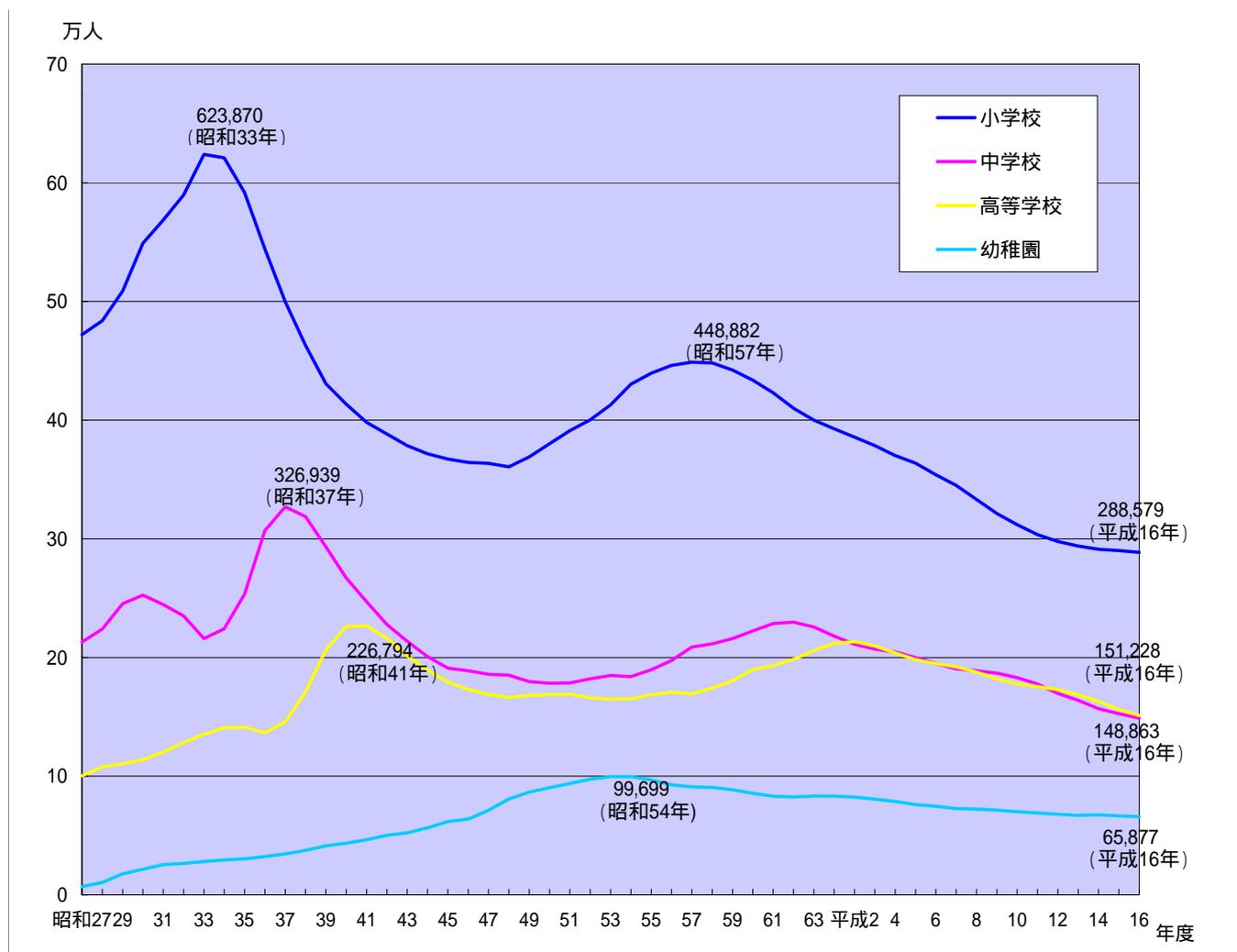
### 1 学校数・在籍者数

平成16年度の学校数は国公立併せて小学校786校、中学校380校、高等学校189校、中等教育学校1校、盲学校4校、聾学校5校、養護学校32校、幼稚園513園である。前年度と比べて、小学校で2校、幼稚園で7園の減少、中学校で2校、養護学校で1校の増加、中等教育学校で1校の新設である。

毎年5月1日の幼稚園・小・中・高等学校における幼児・児童・生徒数の推移について表したものが図1-1である。

近年の在籍者数の減少傾向は著しく、小学校在籍児童数で見ると、戦後2度目のピークである昭和57年の448,882人以降は連続的に減少傾向にあり、平成16年度の小学校在籍児童数は288,579人で昭和27年の調査以降過去最低である。

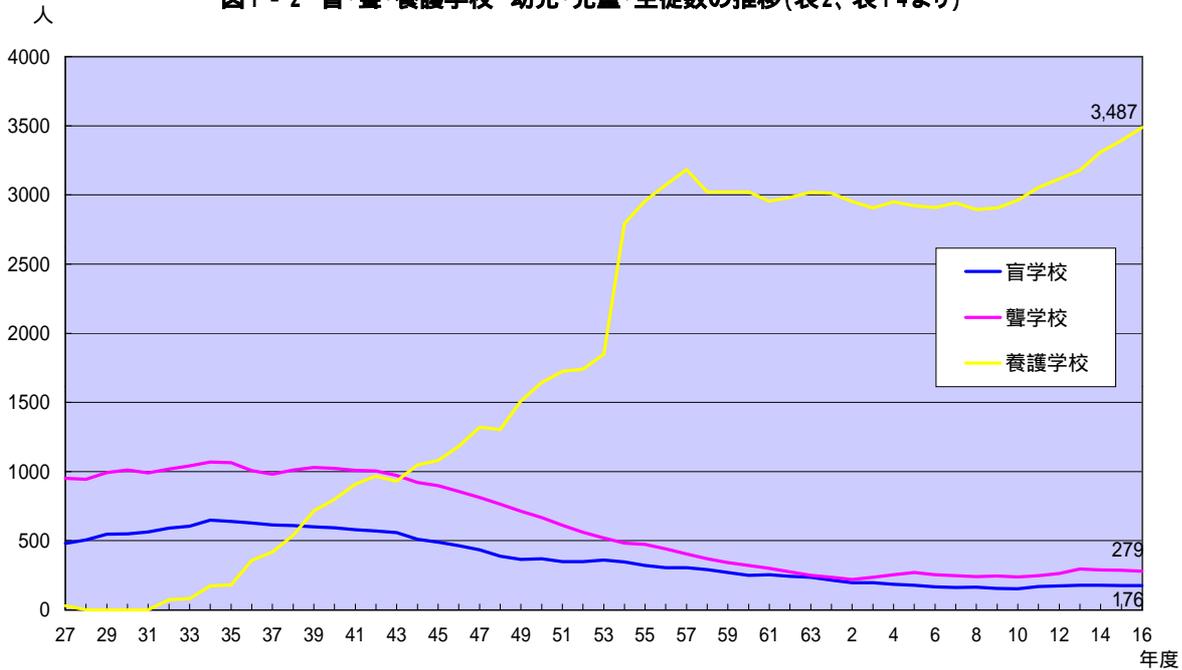
図1-1 幼稚園・小・中・高等学校 幼児・児童・生徒数の推移(表2より)



盲・聾・養護学校における幼児・児童・生徒数の推移について表したものが図1 - 2である。

平成16年度の在籍幼児児童生徒数は盲学校で176人、聾学校で279人、養護学校で3,487人である。養護学校の障害別内訳で見ると、知的障害が2,702人、肢体不自由が666人、病弱が119人である。

図1 - 2 盲・聾・養護学校 幼児・児童・生徒数の推移(表2、表14より)

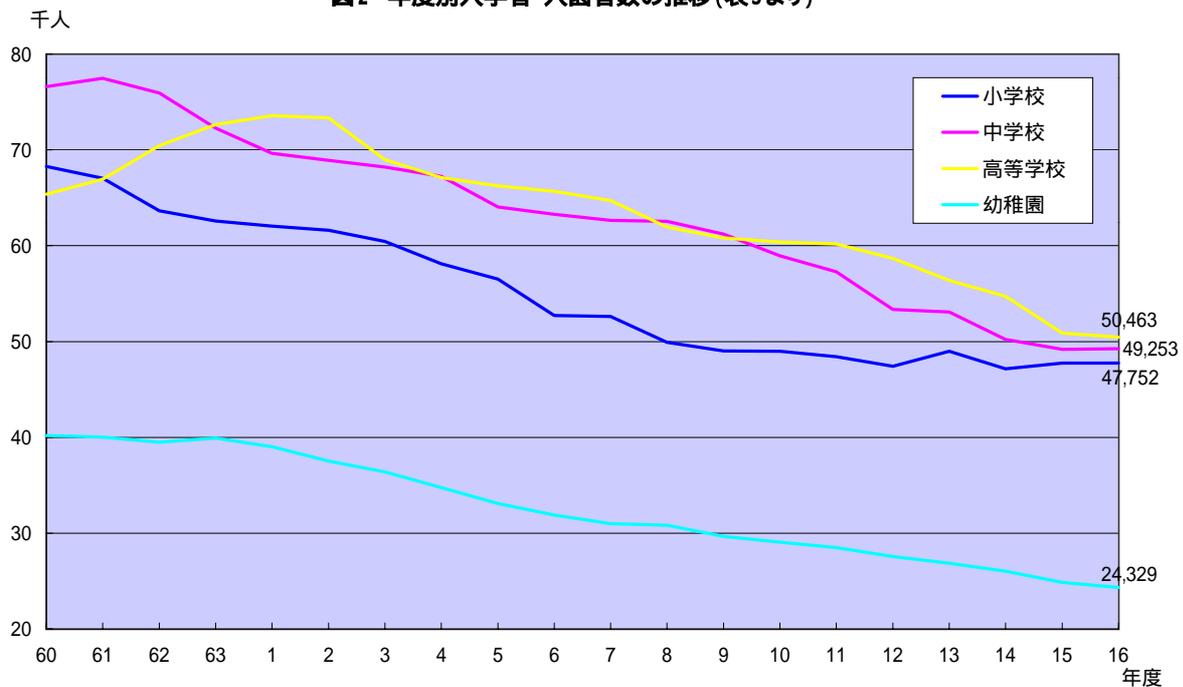


## 2 入学者・入園者・第1学年児童生徒数

過去20年間の入学者・入園者数の推移を表したものが図2である。

平成16年度の入学状況は幼稚園(3歳・4歳・5歳入園の合計)で24,329人、小学校(第1学年)で47,752人、中学校(第1学年)で49,253人、高等学校(本科)で50,463人であり、全ての学校種別で減少傾向が見られる。

図2 年度別入学者・入園者数の推移(表3より)

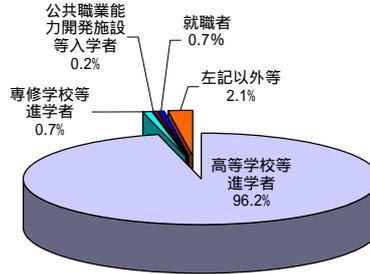


### 3 中学校卒業後の状況

中学校卒業者の進路状況は、図3のとおりである。卒業者総数53,242人のうち、高等学校等進学者は51,244人、専修学校等入学者は399人、公共職業能力開発施設等入学者84人、就職者393人、左記以外・死亡・不詳1,122人である。

また、就職進学者は高等学校等進学者のうち22人、専修学校等入学者のうち1人である。

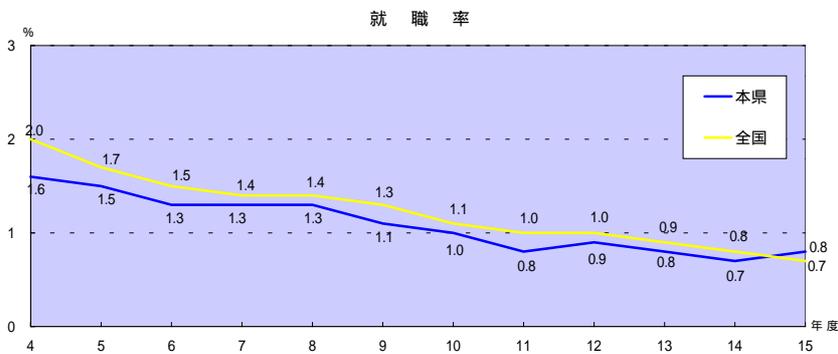
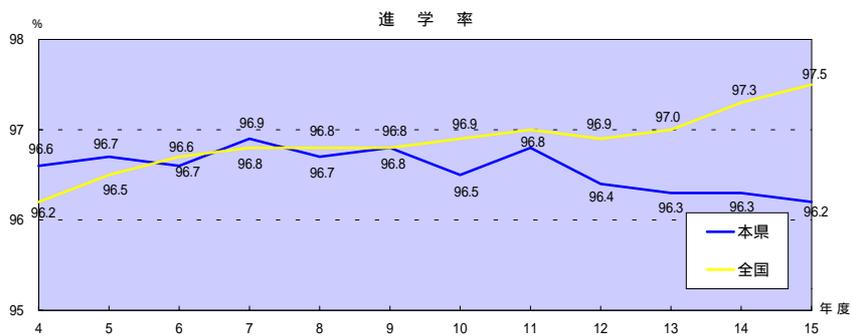
図3 中学校卒業者の進路状況(表5より)



中学校卒業者の進学率・就職率の推移は、図4のとおりである。

平成15年度(平成16年3月卒)における本県の進学率は96.2%で前年度から0.1%下降しており、就職率は0.8%で前年度から0.1%上昇している。

図4 中学校卒業者の進学率・就職率の推移(表6より)



#### 4 高等学校卒業後の状況

高等学校卒業者の進路状況は図5のとおりである。卒業生総数50,894人のうち、大学等進学者は22,334人、専修学校等入学者は14,570人、公共職業能力開発施設等入学者は203人、就職者8,295人、一時的な仕事についた者1,236人、無業者・死亡・不詳4,256人である。

また、就職進学者は大学等進学者のうち6人、専修学校等入学者のうち66人である。

高等学校卒業者の進学率・就職率の推移は、図6のとおりである。

平成15年度(平成16年3月卒)における本県の進学率は43.9%で前年度から0.5%上昇し、就職率は16.4%で過去最低となった。

図5 高等学校卒業後の進路状況(表7より)

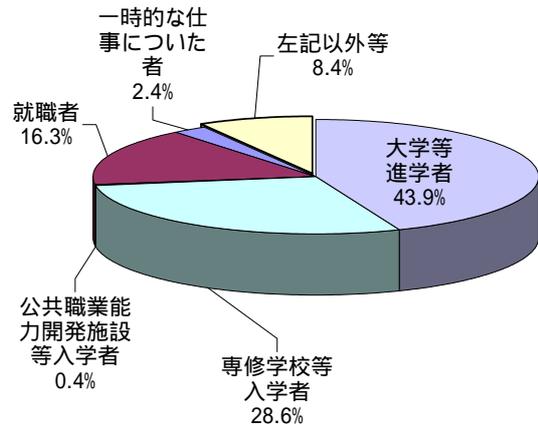
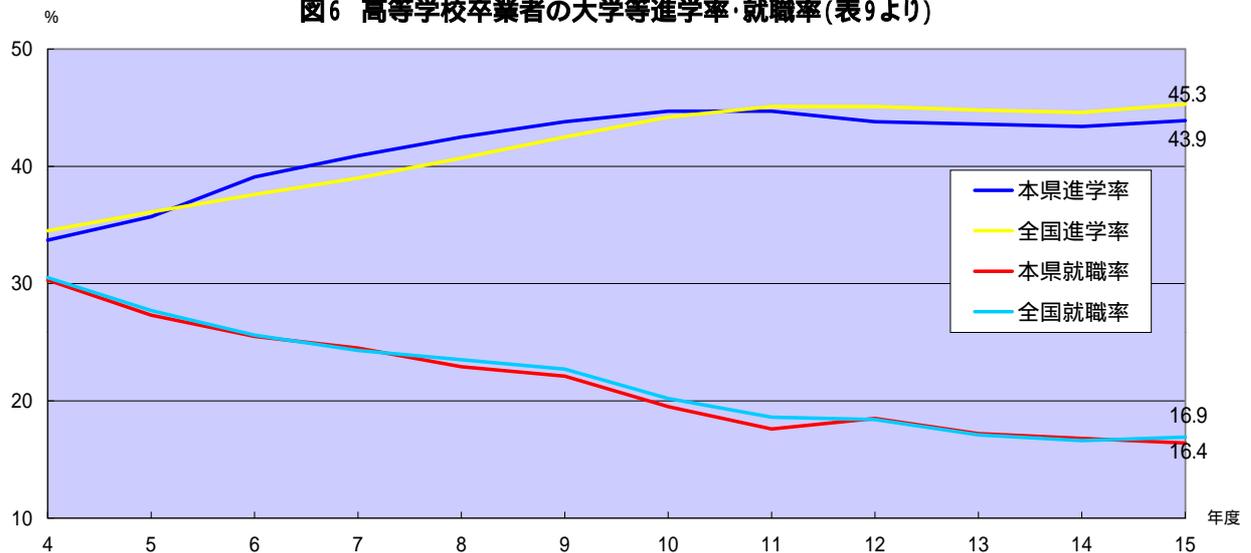
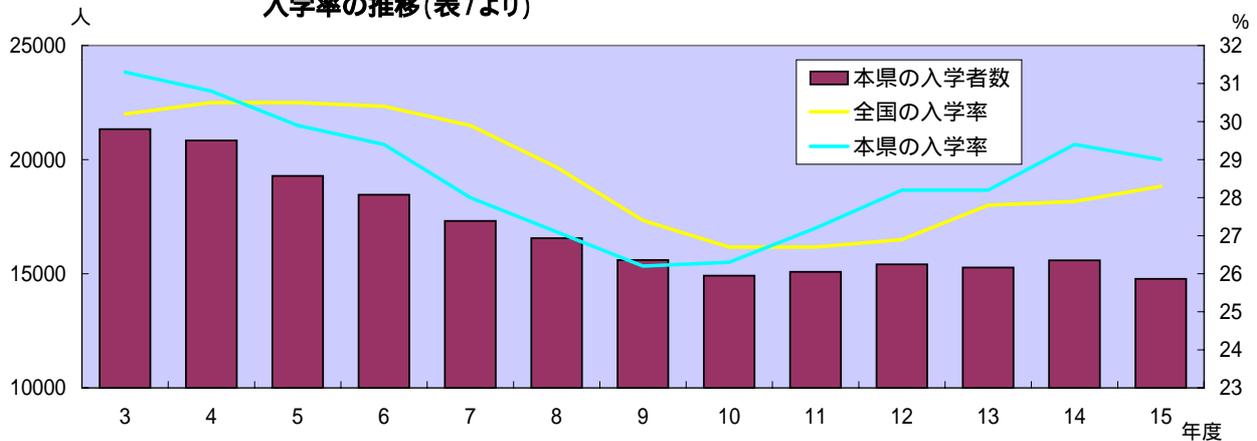


図6 高等学校卒業者の大学等進学率・就職率(表9より)



高等学校卒業者のうち、専修学校等及び公共職業能力開発施設への進路状況は、図7のとおりである。平成15年度卒業者のうち入学者数は14,773人(29.0%)であり、昨年度から0.4%の減である。

図7 高等学校卒業者の専修学校・公共職業能力開発施設入学者(合計数)及び入学率の推移(表7より)



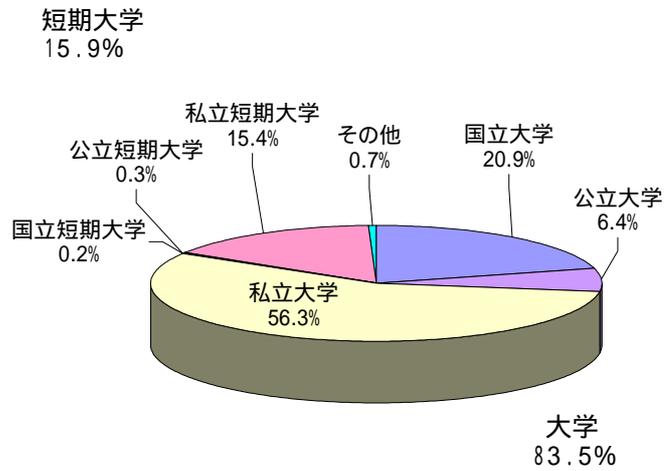
公立高等学校(全日制)から大学・短期大学等に進学した13,716人のうち、大学・短期大学への国・公・私立別進学状況は図8のとおりである。

最も多いのが私立大学への入学者で7,716人、ついで国立大学2,860人、私立短期大学2,111人、公立大学875人、その他(大学・短期大学の別科高等学校の専攻科及び盲・聾・養護学校高等部専攻科等へ進学した者)90人、公立短期大学39人、国立短期大学25人となっている。

大学と短大の比較では、大学・短期大学等への進学者に占める大学への進学者の割合が昨年の84.1%から83.5%に減少したのに対し、短期大学への進学者は15.4%から15.9%へ増加しており、短大への進学割合が増加している。

国・公・私立別では、国・公立の大学・短期大学の進学者の割合が28.0%から27.7%に減少したのに対し、私立の大学・短期大学への進学者は71.5%から71.6%に上昇し、私立への進学者が増加している傾向にある。

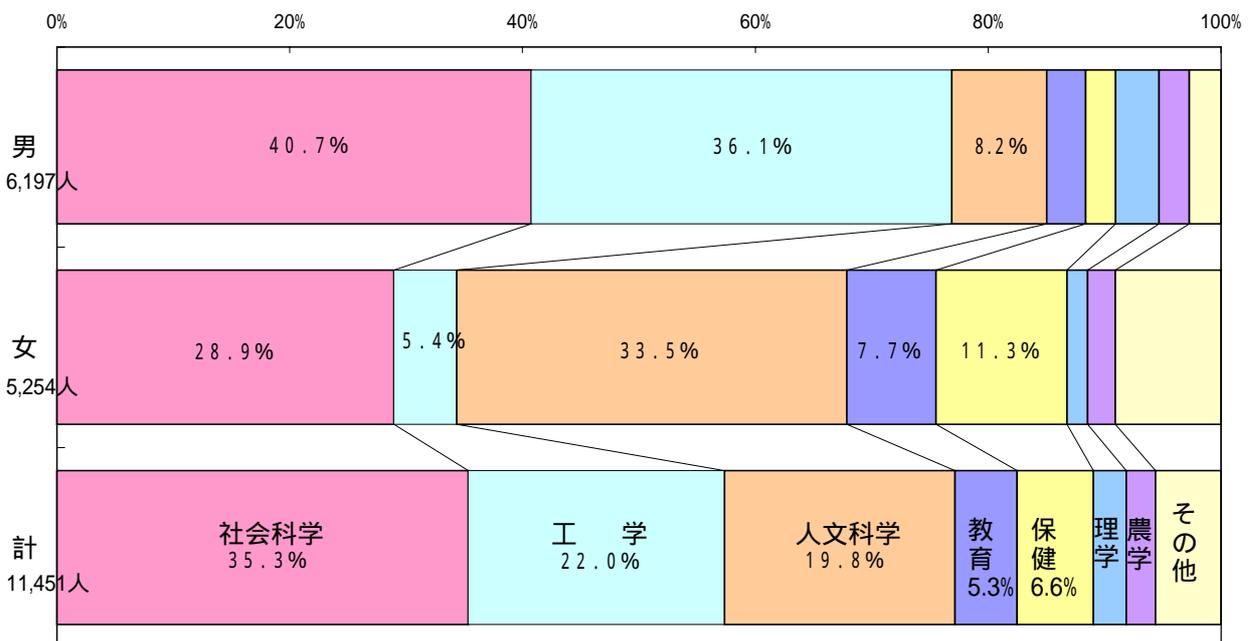
図8 高等学校卒業者の大学・短期大学への国・公・私立別進学状況[公立・全日制] (表10より)



公立高等学校(全日制)卒業者の大学への専攻別進学状況は図9のとおりである。男子の大学進学者は、6,197人、女子の大学進学者は5,254人である。

大学進学者で見ると、全体では社会科学関係が最も多く 35.3%(男子 40.7%、女子 28.9%)となっている。男女別でみると、男子で工学関係(36.1%)が社会科学の次に多く、女子では人文科学(33.5%)が最も多い。(図中のその他には商船、家政、芸術、その他を含む。)

図9 高等学校卒業者の大学への男女別、専攻別進学状況[公立・全日制] (表11より)

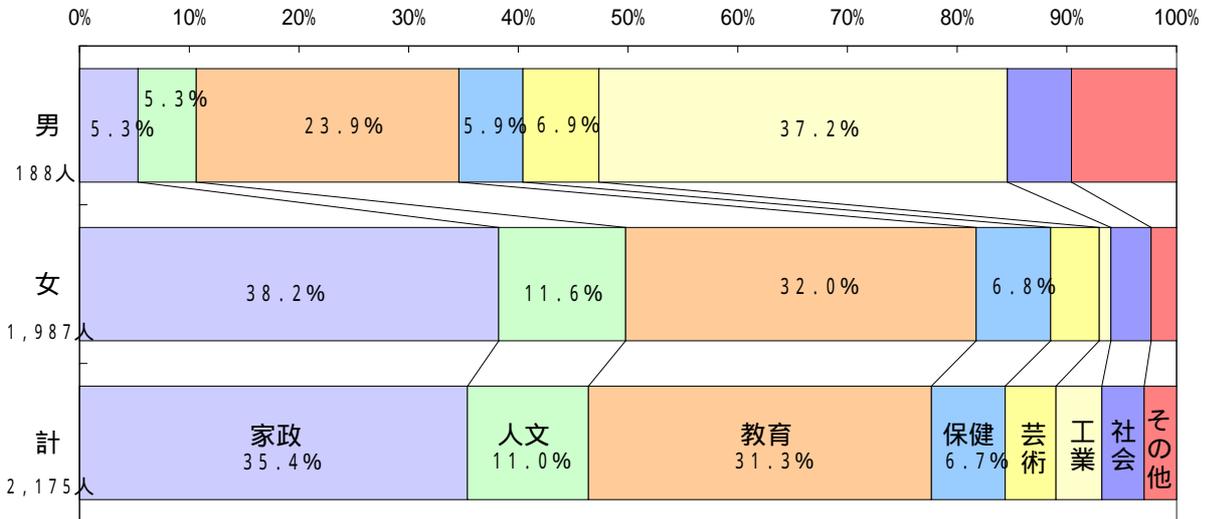


公立高等学校(全日制)卒業者の短期大学への専攻別進学状況は図10のとおりである。男子の短期大学進学者は188人、女子の短期大学進学者は1,987人である。

男子で多いのは工業関係で37.2%、次いで教育23.9%、芸術6.9%となっている。女子では家政関係が最も多く38.2%を占め、次いで教育32.0%、人文11.6%となっている。

(図中のその他には教養、理数、農業、その他を含む。)

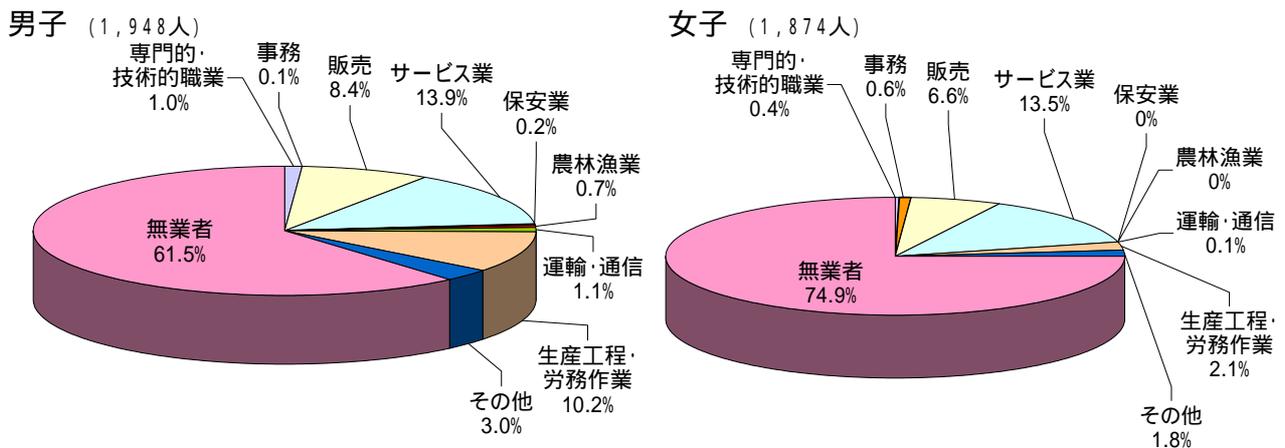
図10 高等学校卒業者の短期大学への男女別、専攻別進学状況[公立・全日制]  
(表11より)



### 5 定時制課程在籍生徒の男女別就業状況

高等学校定時制課程の生徒の就業状況を男女別に表したものが図11である。男女とも無業者の占める割合が最も多く、男子では1,198人(61.5%)、女子では1,404人(74.9%)である。次いで多いのが、男女ともサービス職従事者で、男子では270人(13.9%)、女子では253人(13.5%)である。

図11 高等学校定時制課程在籍生徒の男女別就業状況(公立)(表12より)



## 6 「学校教育法第75条の学級」(特殊学級)の状況(公立)

「学校教育法第75条の学級」(特殊学級)の児童生徒数は、平成16年度で小学校1,773人、中学校826人である。図12は過去14年間の児童生徒数の推移であり、図13は平成16年度における障害の状況の構成を表したものである。

図12 学校教育法第75条学級(特殊学級)の児童生徒数の推移(表16より)

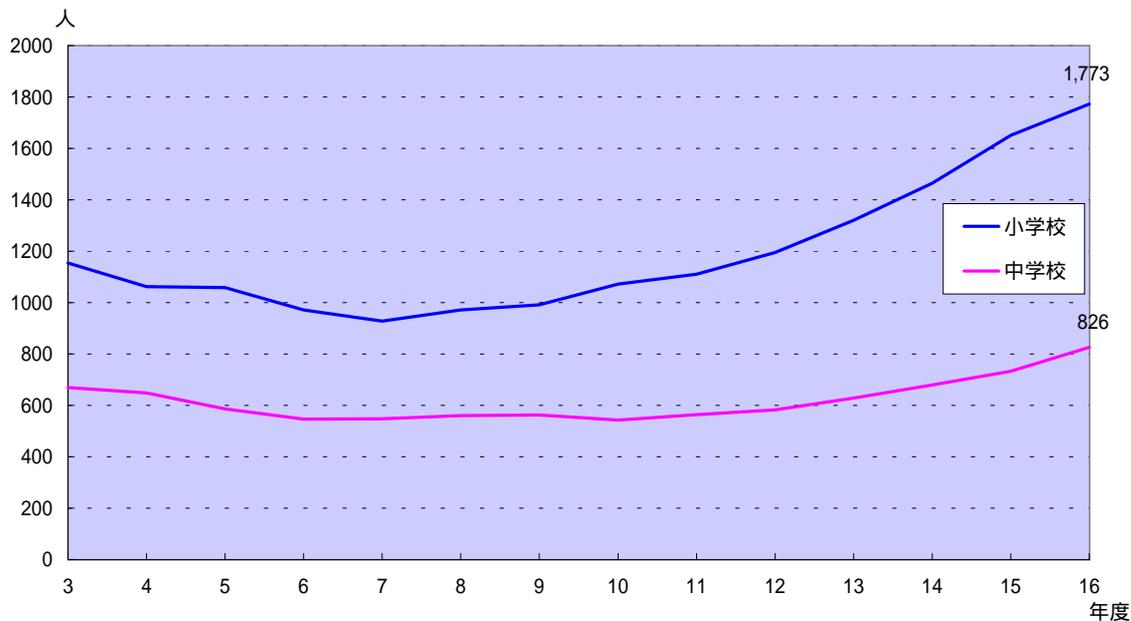


図13 学校教育法第75条学級(特殊学級)の児童生徒数の障害別内訳(表16より)

